

ほたるっ子



磐梯第一小学校
学校だより
NO. 20
R4. 6.20
(文責:校長 菅家 篤)

ドリーム&チャレンジ! ~あいさつ・はっぴょう・なかまとじぶん~

アジサイのように

右の写真は、渡部佳規教頭先生が、先週、学校のブログに掲載したアジサイです。今春、本校を卒業した中学1年生が、毎日毎日、大事に育てていたそうです。



さて、春のニュースで話題になるのは桜の花。確かにほんのりと淡いピンク色の花が咲き誇る風景はとても綺麗ですし、それが春風に乗ってひらひらと散るさまは、他の花には代えがたい魅力を持っています。桜の花の持つはかなさやパッと咲いてパッと散る潔さの美学には、日本人の多くが憧れます。

でも、それと一緒に、私は**アジサイの花のしぶとさ**にも憧れます。【卒業生が育てたアジサイ】花（正式には「がく」）の色を様々に変えて、最後は漂白剤を誤ってかけてしまった服のように、まだらに色あせながらもアジサイの花は長く、長く、しぶとく咲き続けます。街の風景に溶け込みすぎて「お花見」の対象にすらならない地味な花は、それでも、梅雨どきの雨にも台風の強風にも散り落ちることなく、ひと夏を生きます。

私は、子どもたちにアジサイになってほしいと願っています。

☆宿題や家庭学習に毎日しっかり取り組んでいる子

☆気持ちの良いあいさつを毎日続けている子

☆花壇の花や畑の野菜への水やりを忘れずに行っている子

など、磐梯一小にもアジサイのような子どもたちがいます。素晴らしい賞をもらったり、特に大ききなことしたりしたわけではないけれど、物事に地道に取り組む、そんな子どもたちを見ると、そっと応援してあげたくになります。

幸せ気分でするしつけ <その5>

～子どもをよりよい方へ動かす魔法のメッセージ～

《お母さんのいるところが「ただいま」の場》

学校からの帰りが遅くなると、娘はときどき迎えに来てほしいと電話をかけてきます。田んぼ道を車で走ると、10分ほどで娘の学校です。電気の消えた校舎の前で娘は待っています。娘は「ありがとう」と言って車に乗り込み、その日の出来事を話し始めます。

あるとき、やはり迎えに行くと、娘は「ただいま」と言って車に乗り込んできました。

私は妙に感動しました。子どもにとって親のいる場所が「ただいま」なんだ。子どもが帰ってくるのは家ではなく、親の居るところなんだ。だから車であっても「ただいま」なんだ。

「今『ただいま』って言ったよね」あなたにとってお母さんの居るところが『ただいま』なんだね。なんだかうれしいね」そう言葉にして伝えると「ほんとだね」と娘。それ以来、娘は必ず「ただいま」と車に乗り込んできます。そのたびに、私はこの子の親なんだと喜びを感じます。

このお母さんの子どもへの働きかけにも、前回までに紹介した親子のエピソードとの共通点があります。今回は、いよいよ最後のエピソードを紹介します！